

# 令和5年度 学校関係者評価 鈴鹿市立天栄中学校

評価項目	R5年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果指標/R5年度実績 ( )内は順に R4・R3・R2・R元・H30・H29年度実績 -は実績・調査結果なし	学校運営協議会委員より	令和5年度 改善の方向性
学力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修部会を中心とした更なる授業改善の推進(協働課題の研究・授業実践交流・鳴門アンケートの更なる活用)</li> <li>・ICTを活用した授業の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に意欲的に取り組める指導の工夫を行っている教員の割合 100%(100% 96.0% 100% 100% 100% 95%)</li> <li>・自分から進んで勉強に取り組んでいる生徒の割合 68.6%(72.6% 69.6% 68.6% 68.9% 69.2% 64.1%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○プロジェクター映像はよくわかり、黒板に板垣した文字を消す手間も省け、テンポのいい授業ができるのではないのでしょうか。生徒達がスクリーンを見て勉強している姿を、参観時に拝見させていただきました。生徒達の学力向上に向けて、活弁な活用をしてください。</li> <li>○授業参観の際、はっきりと自分の意見を述べる生徒が多いのに感心した。協働課題を受け論議していく中で、培われるものに期待する。協働課題のテーマについては十分な検討が必要。</li> <li>○授業参観で、協働課題に取り組む「学び合う」という授業をみました。生徒がとても楽しそうであると感じました。楽しい授業は、明日の励みになります。</li> <li>○ここ数年でICTの活用が急速に進められています。軌道にのるまではコンテンツ作りなど準備が大変だと思いますが、簡単にシミュレーション的な活用ができる、数値の変化を画像として見える化できる、語句のつながりを変えてみて論理的でわかりやすい文書にできるなど、幅広い分野で生徒の理解を助ける強力なツールだと思いますので引き続き取り組みを進めていただきたいと思ひます。</li> <li>○協働課題を取り入れグループ仲間と協働して学んでいく授業が進んできているように見受けます。グループ内でトライ&amp;エラーを繰り返しながら答を見つけていくプロセスは、色々な場面で応用することができるし、生徒もいきいきしてきたように感じます。なお、いつも特定の者がグループから疎外されるようなことが無いように適切な目配り(指導)をお願いします。</li> <li>○「学校は生徒が宿題をきちんと行うよう指導していると思ひている保護者の割合」は、「家庭学習の重要性」であるならば不要ではないか。</li> <li>○目指す生徒像とは、職員の方々は、どのような生徒のことが詳しく教えて欲しい。</li> <li>○意欲的に取り組める授業の工夫をしている教員の割合が高いにもかかわらず、進んで勉強に取り組む生徒の割合が少ないのは残念ですな。</li> <li>○学習の手引きの内容を、現状に即した運用の見直しを適宜更新するようにお願いいたします。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協働課題を設定した授業づくりをより一層すすめたい。来年度は、より課題の質にこだわり、子どもたちが「やりたいたい！」と進んで学びたくなるような授業を研究していく。また、学び合うことができる仲間づくりについても学校全体で組織的に実行していく。信頼関係のある本当の「つながり」を構築するための方策について模索したい。</li> <li>・教師側のICT利用率はかなり高いが、生徒が効果的にICTを活用できるよう、授業内での活用例を教員間で共有していく。</li> </ul>
家庭学習の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の大切さを伝えるための「学習の手引き」の内容の見直しと活用(学期初めの丁寧な説明)</li> <li>・ICTを活用した家庭学習の推進</li> <li>・教科担当による宿題の状況把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は生徒が宿題をきちんと行うよう指導していると思ひている保護者の割合 85.3%</li> <li>・学校の宿題をしている生徒の割合 92.4%(93.5% 93.3% 94.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科の宿題の量を十分把握して欲しい。多少多い日と少ない日があるのはやむを得ないが、ある程度平準化出来ないか？例えば各教科の宿題に要する標準的な合計時間を目安にしてはどうだろうか？</li> <li>○五感を使って学習するほうが記憶に残るといいます。「手で書かない」という点では、授業にせよ、宿題にせよICTの利用は、デメリットがあるということです。</li> <li>○ICTについては、同じ道具を使っているのですから、市内各校での事例を共有すれば、ICT適不適の判断はある程度可能だと考えます。また、『宿題提出期限の教科間調整』についても、どの学校でも問題となっていると思われる。良い策が市内のどこかにあるのでは？</li> <li>○家庭教育は、自習の要素が強いと思ひます。授業ではハッキリ分からなかった部分を映像なども使って時間がかかっても理解できるようにコンテンツがあれば、家庭で学習の遅れを取り戻せることが容易になり、学習意欲の向上につながると思ひます。</li> <li>○宿題をしてこない生徒に対して、どのような指導をしているのを知りたい。</li> <li>○保護者から生徒が宿題をきちんと行うよう指導していると思ひていることと、宿題をしている生徒の割合が高いのはすごいです。</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科における宿題の把握について、他校の実践もふまえて対策を講じたい。</li> <li>・授業時間内では理解できなかった内容の学び直しのため、家庭学習での復習に使えるアプリや動画などの紹介について検討したい。</li> </ul>
講義師の活かな進路指導の実施と外部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学びを将来の夢につなげるため、具体的なイメージを持たせる指導を工夫(高校授業体験、すずか夢工房、Chromebookの活用等)</li> <li>・3年間を見通した系統的なキャリア教育、進路指導の充実(「よこそ先輩」の実施、キャリアパスポートの活用等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の夢や希望を持っている生徒の割合 64.0%(62.1% 63.5% 66.7% 70.2% 67.6%)</li> <li>・人の役に立つ人間になりたい生徒の割合 96.5%(95.6% 94.7% 95.4% 94.4% 92.6%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職業体験学習は社会の厳しい一面を勉強できると思ひます。自立心の向上も期待でき、自分の将来に向けた何かをつかむことができるかも知れません。</li> <li>○「天栄チャレンジヤーズ」はキャリア教育としてよい試みで、教師と生徒の距離が近くなるように思う。キャリア教育の一環として実施される職場体験学習は、受け入れてくれる事業所も大変だと思うが生徒にとっては貴重な体験となる。継続は難しい面もあるだろうが続けて欲しい。</li> <li>○子どもの頃とは違い、中学も高学年になると将来も現実的になってくると思ひます。必ずしも夢や希望が持てないことを否定的に捉える必要は無いと考えますが、少なくとも進路の選択については、できるだけ早期に生徒が次のステップである高校等を選択できるような情報を提供し直近の目標を持たせることで、生徒自身がこれに向かって努力する契機としてはいかがでしょうか？</li> <li>○職場体験は数多く体験させてほしい。</li> <li>○将来の夢や希望を持っている生徒の割合が思ったより少ないが、子どもの夢を大人が否定していないか。例えば、将来ケーキ屋さんになりたいと言ったら、将来ケーキはロボットが作るようになるなどと言われたと聞いたことがある。</li> <li>○将来の夢や希望を持っている生徒の割合が低いのに驚いたが、人の役に立ちたいと思ひている生徒が多いのは、思いやりの精神が育っているからだろうと思ひます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業体験学習の取り組みについては、肯定的な意見、アンケート結果等を得られたので、次年度以降も継続する。また、生徒の希望に沿った割り振り等ができるよう、職業体験先の確保に努める。</li> <li>・進路選択や高校進学への意欲を向上させるための取り組みを、早期かつ継続的に取り組む。</li> <li>・夢や希望を持っていない状況を悲観することなく、目の前の生徒の夢や希望に寄り添い、人の役に立ちたいという気持ちが社会貢献にもつながることを伝えたい。</li> </ul>

	評価項目	R5年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果指標/R5年度実績( )内は順にR4・R3・R2・R元・H30・H29年度実績 -は実績・調査結果なし	学校運営協議会委員より	令和5年度 改善の方向性
生徒支援・特別支援教育	<p>・情報共有を密にし、不登校傾向にある生徒に対して早期支援をしているようにする。</p> <p>・今後も教育相談の時間をしっかりと確保するなど、生徒の困り感や不安を聞き出せる環境づくりに努める。</p> <p>・SNSによるトラブルをなくすため、生徒に対するスマホ等機器の適切な扱い、及びSNS等に係るトラブル防止の指導だけでなく、スマホに係る実態調査から、保護者への呼びかけを行っている。</p> <p>・今後も各学期のいじめについてのアンケートや教育相談等により、いじめの早期発見と早期対応に努める。</p> <p>【成果と課題】            &lt;生徒支援&gt;            ○校区の不登校支援担当の先生方と連携を取りながら不登校対策を考えることができた。            ○教育相談期間をしっかりと取ることで、生徒一人ひとりの話を丁寧に聴く場を設けることができた。            ○保護者や地域への呼びかけだけでなく、生徒がSNSについて学ぶことができるように、講師を招いたりオンラインでの講習を受けたりする機会を設けた。            ●校内でも校区間でも情報共有に終わってしまっている部分が多くあったため、対応まで詰めていけるようにする。            ●今後もいじめの早期発見と早期対応に努める必要がある。            &lt;特別支援&gt;            ○特別支援学級の生徒一人ひとりに合わせた学校での過ごし方を提案し、支援することができた。            ●全教職員でインクルーシブ教育を進めていくことが必要。特別支援学級に在籍する生徒が、協力学級での授業やほかの活動に取り組めるよう、教職員間で情報共有を密にし、連携する。</p>	<p>・特に配慮を要する生徒への対応で工夫、改善を組織的に進めていると思う教員の割合 100% (91.0% 96.0% 100% 96.0% 100% 100%)</p>	<p>○不登校問題については先生方の不断の努力に尽きると思います。生徒の登校への苦悩はそれぞれで、その対応については大変だと思います。家庭環境、生徒間の関係や学校との葛藤など、丁寧な対応をすることにより少しでも生徒の心の扉を開けるように願っています。</p> <p>○「教育相談」は内容的には「よろづ相談」でいいと思う。成果指標としては相談件数とし、目標を掲げてはどうでしょう。気軽に相談出来ることが一番大切だと思う。</p> <p>○鈴鹿市でも、マルチメディアデジタル教科書の導入を考えてはいかがでしょうか  <a href="https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext_r5.html#Ele">https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/daisytext_r5.html#Ele</a>            参考までに、令和5年度 音声教材の効率的な製作方法等に関する調査研究事業「デジタル教科書事例報告会」が2/23開催されます。オンライン参加できます。申込期限2/18です。  <a href="https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/20240223.html">https://www.dinf.ne.jp/doc/daisy/book/20240223.html</a></p> <p>○成長過程にある中学生時代は人の好き嫌い、あう・あわないなどの人間関係に悩む生徒も出てくるようです。不登校の原因や理由によっては当該校とは別の受け皿で対処することがあっていいと思います。</p> <p>○特別支援教育に関しては、できるだけ普通学級の生徒と一緒に時間を設けて、“一緒にいることが普通”という状況になればいいと思います。</p> <p>○不登校の対象外(年間30日以下)の生徒に対しても原因を見極めて、対応してほしい。</p> <p>○校内でうつした動画等をSNSにあげていることがわかっても、きちんと指導ができていないと思う。保護者に呼びかけるだけではSNSによるトラブルはなくなるという、厳しく指導できないようでは、いじめや不登校が増えるのではないかと。</p> <p>○配慮を要する生徒への対応での工夫・改善を行っていると思う教員の割合が多いが、自己判断からか又は教員相互で決めているのか、どうでしょうか。</p>	<p>・学期ごとの教育相談を継続して行っていくとともに、子どもたちがいつでも気軽に相談できると思えるような関係づくりに励む。</p> <p>・不登校生徒や配慮を要する生徒への支援を教育相談部会を中心として考え、必要に応じて外部機関との連携も取りながら対応を進めていく。</p> <p>・特に特別支援学級の担任と普通学級の担任が連携(どの時間に、どのように普通学級で過ごすか、そのためにどのような配慮が必要か等の相談)して、特別支援学級の生徒が上手に特別支援学級を使いながら、普通学級で居心地よく過ごせる時間を少しでも増やしていきたい。</p> <p>・SNSによるトラブルをなくすため、生徒に対するスマホ等機器の適切な扱い、及びSNS等に係るトラブル防止の指導だけでなく、スマホに係る実態調査から、保護者への呼びかけを行っている。</p> <p>・今後も各学期のいじめについてのアンケートや教育相談等により、いじめの早期発見と早期対応に努める。</p>	
人権教育	<p>・仲間同士認め合う意識を育てるための活動の継続</p> <p>・教員全体に向けた人権教育に関する情報発信や、人権課題に関する教員間での情報共有(教科指導や生活指導との関連づけ)</p> <p>・メディアリテラシー教育の強化</p> <p>・校区すべての小学校が参加できる人権フォーラム</p> <p>【成果と課題】            ◎人権教育部会を中心に実践が適切に進められた。互いに知り合う取り組みとして「つづり作文」を校内研修で紹介し、全校で取り組むことにつなげることができた。            ○校区の小学校と連携した人権教育活動の取り組みとして人権フォーラムでは校区の4つの小学校の生徒が参加し「外国人の人権に係る問題」について話し合うことができた。            ●地元児童と稲生小児童(校区人権フォーラムに参加できない)との意識の擦り合わせ。</p>	<p>・教員が、よいところやがんばりを認めてくれている生徒の割合 95.3%(94.0% 93.2% 91.8% 86.5% 87.1% 89.0%)</p> <p>・学級の仲間は自分のよいところやがんばりを認めてくれていると思う生徒の割合 90.4%(89.3% 84.7% 86.5% 82.9% 82.5% 84.7%)</p>	<p>○この地域でも外国人の姿をよく見るようになりました。天栄中学校へ通う外国人の割合はどのようになっているのでしょうか？個別状況はどうなのでしょう？できれば教えてほしいです。</p> <p>○「校区人権フォーラム」は小学6年生が不安なく中学生生活を迎える上で、すごくいい試みであると思うが稲生小学校の参加を強く望む。</p> <p>○稲生小からの生徒が通うようになり、すでに8年が過ぎようとしており、生徒数も37%が校区外です。稲生と地元という区別は、生徒間では無いと思いますが、小学校保護者からは「稲生からくる子が云々」という声も聞きます。不正確なマイナス情報は、必要以上に悪く聞こえてくるものであり、集団作りには不安要素となります。これは単に天栄中学校対応でなんとかできるものではないと考えます。</p> <p>○人間関係の中では大人の社会でも仲間はすれやいじめなどが発生することははめずらしくないと思っています。この場合、早期発見と迅速な対応で傷が浅いうちに行為を無くしていくことが大事だと思います。但し、人権侵害が深くなるような場合は、躊躇せず他の機関等へ応援を求めることも必要だと考えます。全国的に不適切事例が報道されていますが、これらを他山の石として適切な対応をお願いします。</p> <p>○人権フォーラム等、校区内小学児童の交流は「中一ギャップ」解消にもつながり、交流の機会は多くあってほしい。</p> <p>○良さを認め合う集団づくりに取り組んでいくことは、今後も必要だと思います。</p> <p>○いじめはいいかと思っている子は多いが、なかなか自分からやめようとは言えないのではないのでしょうか。でもやめさせる行動をとる生徒が多いのに少しづつです。</p>	<p>・生徒の実態に応じて、各学年の目標を設定するとともにそれにに向けたカリキュラムを考えていく。</p> <p>・校区人権フォーラムでは、稲生小学校の生徒ともつながりをつくることができるように、検討する。</p> <p>・生徒同士での承認活動を継続させ、定期的に行う。それに加えて「しんどさ」も出し合える、分かち合えるような関係づくりをすることが、安心できる居場所づくりにもなると思うので、今年度から始めたつづり作文を系統立てて取り組んでいく。</p>	

評価項目	R5年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果指標/R5年度実績( )内は順にR4・R3・R2・R元・H30・H29年度実績 -は実績・調査結果なし	学校運営協議会委員より	令和5年度 改善の方向性
生徒会	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もが安心して学ぶことができる学級経営に関する研修会の実施</li> <li>生徒会が主体となり、地域と学校がともに行うピンクシャツ運動の促進。</li> <li>生徒を主体とした、さらなるいじめの未然防止の活動。</li> <li>スマホの所持や使用に係るさらなる啓発活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラスでは、安心して学ぶことができると思っている生徒の割合 89.6%(90.8% 91.5% 91.3% 87.2% 89.9% 91.4%)</li> <li>いじめの発生件数 10件(7件 11件 7件 7件 3件)</li> <li>いじめをやめさせる行動をとる生徒の割合 人が困っていると助ける 91.0%(94.9% 92.1% 89.0% 88.8% 88.4% 82.1%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会で会議されている内容はどのようなものがあるのでしょうか。できれば差支えない程度でいいですので、生徒会の議題について教えてください。何を討議して、どのように解決したのかなど。</li> <li>○生徒会の本年度の行動計画でもあった、校区小学校児童会との交流促進を発展させて欲しい。この行動を通して生徒会運動のやりがいも生まれてくるのではないかと思います。</li> <li>○ピンクシャツ運動など、目に見える活動を我々(地域)も一緒にしましょう。是非、「いつ、どのようにやるか」を教えてください。</li> <li>○学校で安心して学ぶことができない生徒が10%位いるが、その理由は何か調査しているのを知りたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会が主体となり、地域と学校がともに行うピンクシャツ運動を促進する。</li> <li>・「生徒会だより」の発行を行い、生徒会活動についての積極的な情報発信を行う。</li> <li>・委員会などを通して、生徒が主体となる、さらなるいじめの未然防止の活動を推進する。</li> <li>・スマホの所持や使用に係るさらなる啓発活動を実施する。</li> </ul>
コミュニケーション・スクール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大大学校運営協議会の継続開催と開催内容の充実を図る。</li> <li>・教職員の学校運営協議会への参画を促進する。</li> <li>・学校と地域が「目指す子ども像」を共有し、地域の子どもの育ちをどう支えていくかという視点で、学校、地域それぞれの取組を工夫し充実させる。【連携型、協働型への移行】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会年間5回開催(うち1回、天栄中学校区拡大大学校運営協議会開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○天栄中学校を良くするためにどうしたらいいのか、これからも考えたいと思います。</li> <li>○地域によっては「青少年育成部会」等の組織があり定期的に会合を重ねている。こうした場を利用して「学校経営の改革方針」等を伝えることが出来れば、地域との連携も深まると思う。</li> <li>○時間的余裕がない中で、先生方と学校運営協議会が顔を合わせる機会を設けるのは難しいですが、距離を近くする工夫はしていきたいです。</li> <li>○昨年9月、天栄中学校区で、義務教育学校新設の話が急に出来ました。しかし、事前に学校運営協議会には何も話がありませんでした。鈴鹿市のうた「地域とともに」という、文言が信用できなくなりました。</li> <li>○コミュニティスクールの必要性については、全ての教職員が理解すべきと考える。</li> <li>○課題として、教職員の学校運営協議会への参画が進んでいないとあるが、この課題を解決しないと他の項目も進展がない。どうしたら参画が進むのか、考える必要がある。</li> <li>○学校運営委員会(協議会)開催後の議事録はいただけないのでしょうか。欠席した時の話し合いの内容を教えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営協議会、PTA諸会議をはじめ、地域・家庭に対し、学校経営方針や取組を継続的に発信することを通じて、「目指す子ども像」を共有する。その上で、子どもたちの学びと育ちをどのように支えていくかという視点で、学校づくりへの協働の機会を増やす。</li> <li>・学校運営協議会に教職員が参画できるように、時間設定、内容を工夫改善する。</li> <li>・職員会議等を活用し、コミュニティ・スクール、学校運営協議会の取組について共有する機会を増やす。</li> </ul>
公学開校教育活動の積極的な	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、HPの充実とYou Tube等のオンラインによる学校教育活動の公開を工夫し、積極的な情報提供に努める。</li> <li>・授業公開ウィーク等の設定により公開機会を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校は通信、ホームページ、メール配信などで、情報を家庭へ積極的に発信していると思っている保護者の割合 92.4%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校だよりで生徒の元気な様子を拝見させていただいています。</li> <li>○「学校だより」等、積極的な情報発信は評価できる。但しホームページのアップが遅れている現状は改善を求める。</li> <li>○紙の媒体では、特に「回覧」等の場合、読みにくかったり情報量が多いと読まないで次へ廻すことになりがちです。何か工夫が必要だと思います。</li> <li>○教育活動を理解するためには、授業参観におけるテーマ(例えば、意見発表の機会を多くしている)を示してもらって理解しやすいと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校だより、ホームページや諸会議を活用して、学校教育活動に関する積極的な情報発信に努める。</li> <li>・授業参観、授業公開等、教育活動について知ることのできる機会を充実させる。</li> </ul>
地域力の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事への生徒の参画と協同行事を模索する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校支援ボランティアへの登録数 25人(25人 26人 37人 31人 33人 33人)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○以前、吹奏楽部の生徒が栄地区の敬老会で毎年演奏していただきました。コロナの影響もありますが、地域行事への参画も宜しく願います。</li> <li>○地域行事への生徒参画はすすんでいないのが現状。地域行事を予定するまちづくり協議会等と情報共有し、生徒に情報が伝わる仕組みづくりが必要。</li> <li>○まずは、学校運営協議会と先生方との距離を近くする方法を考えます。</li> <li>○部活の制約、働き方改革などのなかで難しいことかもしれませんが、地域の行事への参加要請にはできるだけ対応していただくようお願いいたします。</li> <li>○学校支援ボランティアの方々の支援要請や、協同行事についての協議について、いつ行うのか予定を聞かせてほしい。</li> <li>○廃品回収で生徒がきびきびと動いているのに感心しました。自転車でダンボールを持ってく子が結構いたのも驚きです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き方改革の要請も踏まえながら、地域行事への生徒の参画と協同行事を模索する。</li> </ul>



	評価項目	R5年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果指標/R5年度実績 ( )内は順に R4・R3・R2・R元・H30・H29年度実績 -は実績・調査結果なし	学校運営協議会委員より	令和5年度 改善の方向性
小中一貫	学校園間の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小との教員同士の情報交換や打ち合わせの充実</li> <li>・6年生との交流の充実</li> <li>・稲生小学校との連携策確立(稲生小学校職員との情報交換・春休みの宿題を中3からのメッセージ付きで配布)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区6年生中学校授業参観6月実施</li> <li>・校区合同夏季研修会オンライン開催</li> <li>・校区人権フォーラムの開催</li> <li>・栄幼稚園への出前授業(英語、美術)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「学びよつながれ!アロエイト」において中学3年生が小学6年生に進路選定の話をするのは大変だと思うが、中学生活の様子を聞けるのは小学6年生にとって参考になると思う。活発な交換を期待したい。</li> <li>○小学校の統合などの動きがあるなかで、稲生を含め特に小学校の教員との間で教育環境や生徒・保護者の動向など幅広く情報共有を行い、将来に向けての不安や不信がおきないような対応をお願いしたいと思います。</li> <li>○小中一貫教育に向けて、各小学校との交流がとても大切だと思います。</li> <li>○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼小との教員同士の情報交換や打ち合わせを充実させる。</li> <li>・6年生との交流を充実させる。</li> <li>・稲生小学校との連携策確立(稲生小学校職員との情報交換「学びよつながれ」プロジェクト)の継続実施)に取り組む。</li> </ul>
		<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○今年度も、6年生による中学校授業参観や人権フォーラムを実施し、中学校の授業の様子、教師や先輩たちの様子を肌で感じとってもらうことができた。</li> <li>○校区小学校の児童の様子・研修会での職員の様子を視察(計5回)できた。</li> <li>○稲生小学校にも「学びよつながれ!プロジェクト」(進路決定を終えた3年生が小学校に出向き、学びの大切さを語り、春休みの宿題を配布する)を実施する予定。</li> <li>●校区小学校と同様、稲生小学校の視察を実施する。</li> </ul>			
危機管理	登下校の安全対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通ルール・交通マナーの周知徹底(特に並列走行)</li> <li>・交通安全指導の充実(交通安全教室、危険回避能力の育成など)</li> <li>・安全マップの見直し</li> <li>・地域とのつながり作り(挨拶、情報共有等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通事故の発生件数(学校評価実施時期の数値) 4件(1件 3件 2件 3件 5件 8件 (2件))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昨年10月、地域で「防災講座」を実施したが、中学生の参加は非常に少なかった。これらの行事に中学生が地域の人と一緒に参加することで、防災意識が高まり、ひいては地域の連携も生まれると思う。</li> <li>○交通事故・交通ハツとヒヤリの事例(天災中に限らず)紹介により、安全ルールの周知ができていないだろうか。</li> <li>○自転車通学、特に下校時の状況に危険を感じることがあります。通学路の整備も一部実施されつつありますが、生徒に対する継続的な注意喚起が必要だと思えます。</li> <li>○下校時に自転車置き場から北側交差点へは、下り坂のため、一旦停車もなく横断する生徒もあるので、継続的に指導が必要と考える。</li> <li>○交通事故発生マップを作ったら、危険な場所がわかりやすいと思う。</li> <li>○以前にタバコを吸いながら自転車通学している子がいると聞きましたが、今は大丈夫でしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分事として捉えられるよう、安全教育、防災教育の内容を工夫する。そのための校内研修を充実させる。</li> <li>・家庭への啓発活動を充実させ、学校と家庭、地域が連携して交通安全、防災に取り組む。</li> </ul>
		<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一斉下校時の下校指導を実施し、安全確保に努めることができた。</li> <li>●交通マナーの周知徹底が不十分なため、地域の方々からの苦情を受けることが何度もあった。</li> <li>●自転車同士の事故、自動車との接触事故の発生件数が増加した。</li> </ul>			
保護者・地域との信頼関係の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者・地域との情報共有</li> <li>・電話や対面での真摯な対応</li> <li>・学校を訪問していただく機会を増やす。</li> <li>・引き続き、メール配信、通信、ホームページ、ライブ配信等を活用した情報発信を行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が、教育方針をわかりやすく伝えていていると認めている保護者の割合 75.2%(68.3% 76.4% 74.0% 70.0% 77.4% 80.9%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者に制度の変更などを伝える際には、適切な時期に意思決定に至った経緯や理由などを含め、学校側の意思を正確に伝えること、またその意思や説明が「ブレない」ことが大事だと思えます。特に、クレーム対応については、校長や教員間で内容や対応方針を共有して対処することが必要だと思えます。</li> <li>○情報発信を十分に行うことができなかった理由をはっきりさせて、解決策を考えてほしい。</li> <li>○運営協議会に参加することや学校だより等で教育内容や学校の様子がよくわかるようになってきました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メール配信や学校だよりの活用、ホームページの積極的更新により、学校の取組や協力依頼事項への理解を得る。</li> <li>・電話対応、接遇、時機を得た家庭訪問など、真摯で丁寧な対応に努める。</li> <li>・学校運営協議会およびPTA役員会、地区委員会で、学校の取組を視覚的に分かりやすく発信する。</li> </ul>
		<p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○メール配信や学校だよりを活用することにより、学校の取組や協力依頼事項への理解が深まった。</li> <li>○電話対応、接遇、時機を得た家庭訪問など、真摯で丁寧な対応に努めることができた。</li> <li>●新型コロナウイルス5類移行後の学校教育活動について試行錯誤中であったため、学校を訪問していただく機会を増やすことができなかった。</li> <li>●ホームページの更新頻度が下がったため、視覚的にわかりやすい情報発信を十分に行うことができなかった。</li> </ul>			

評価項目	R5年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果指標/R5年度実績 ( )内は順に R4・R3・R2・R元・H30・H29年度実績 -は実績・調査結果なし	学校運営協議会委員より	令和5年度 改善の方向性
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間で指針に対する共通理解を図っていく。</li> <li>・クラブ保護者会、活動計画、メール配信を活用し、保護者の方々に情報発信し、運営方針や活動内容などへの理解を得ていく。</li> <li>・保護者だけでなく地域にも活動について発信していく。</li> <li>・活動内容を見つめなおし、活動の効率化を図り、働き方改革を行うしていく。</li> </ul> <p><b>【成果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指針にそった活動により、短時間に集中して取り組むことができるようになった。</li> <li>○部活動休養日を設けることで、生徒、顧問が余暇に充てる時間が十分に確保されるようになった。</li> <li>○保護者会を開催することで部活動の運営方針への理解と協力をはかり、来年度以降の部活動の方針について保護者会でプリントを配付し周知できた。</li> <li>●指針に対する教職員間での意識差がみられる。</li> <li>●1つの部に関して部活動指導員の導入がされたが、今後実施していく地域移行について指導者の確保などの課題が多くみられる。</li> <li>●夏場の部活動における熱中症対策を各部で徹底し、安全・安心な部活動運営につなげることが今後求められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度初めの保護者会開催 100%</li> <li>・年間活動計画、月間活動計画作成 100%</li> <li>・メール配信の活用 100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教師不足が深刻な状況との報道をみたことがあります。働き方の改革にもICTを駆使して、効率的な業務運用をお願いします。</li> <li>○部活については、教育課程との関わり、教員の負担などから総合型地域スポーツクラブとの連携(移行)などが検討されるなど問題が提起されてからかなり時間が経過しています。一方で、地域の実態を見るとまだまだ課題が多いと感じています。しかしながら、現状は少子化が進み教員も減って従来のように教員が部活を支えることが物理的に困難になりつつあります。このような(教員の努力で部活が維持出来るような状況ではなくなっている)状況を保護者や地域に理解してもらうことが必要な時期にきていると思います。</li> <li>○指針に対する教職員間での意識差を少なくするために、運営協議会委員との懇談会を開いてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、部活動休養日の設定等、指針に沿った活動を行うと共に、働き方改革等を踏まえた部活動の在り方について、保護者会等を活用し理解を得る。</li> <li>・熱中症対策の徹底等、安全・安心な部活動運営を行う。</li> <li>・地域移行について、学校現場からの積極的な情報発信、意見具申を行う。</li> </ul>
総勤務時間の縮減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の均衡化、組織化</li> <li>・学校関係者の方への業務支援依頼</li> <li>・引き続き、学級経営、教科指導、生徒指導等に係るスキル等の若手への伝承・サポート</li> </ul> <p><b>【成果と課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学年会を定例化したことにより、企画委員会や各部会での決定事項が速やかに共有され、組織的な業務遂行につながった。</li> <li>○企画委員会で職員会議の協議事項を精査したことにより、協議のポイントへの共通理解や会議時間の短縮が進んだ。</li> <li>○各学年・各分掌でのOJTが活発に行われたことにより、若手教員の指導力向上はもちろん、プレ・ミドル層やミドル・リーダーの指導力向上にもつながった。</li> <li>●経験年数の少ない教員や講師の増加により、業務の平準化が難しい面があった。組織化の面では、各分掌の長のリーダーシップがさらに発揮され、報告・連絡・相談の徹底も含めた改善がなされることが期待される。</li> <li>●学校関係者の方々より寄せられた支援の意思に対し、学校が具体的な支援依頼を行っていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画委員会での行事等の事前提案</li> <li>・学年会の定例化</li> <li>・定例会議の時間内実施率 72.2%(94.4% 94.1% 90.9% 100% 100% -)</li> <li>・定時退校の実施(R5年目標月2回) 91.5%(97.0% 96.5% 100% 100% 100% -)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校関係者の支援があれば、勤務時間の縮減が図れるのかどうかの十分な検討が必要。その上で縮減可能であれば、どんな支援があるのかを投げかけてみてはどうでしょうか？</li> <li>○名前のわかる学校関係者であれば、話をしやすくするでしょう。まずは、学校関係者の顔と名前のわかる関係作りが必要です。</li> <li>○多様な働き方の教員の混在、ICT活用の要請など新しい環境への適応、SNS世代の保護者対応など教員を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっており、総勤務時間の縮減や少子化による定数の削減が進むと更に1人1人の労働環境は悪化してくると思います。普通のサービス業であれば経済原則に任せておけばいいいのですが教育分野はそういう訳にもいきません。地域の支援や校長や教員の努力では解消できない状況であれば地道に継続的に”世間”に訴え理解を求めていく必要があると思います。</li> <li>○教職員にアンケートをとって、支援してほしいことをまとめてほしい。</li> <li>○先生方の日々の業務は大変だと思います。地域の行事への参加要望があるかと思いますが、自分の住んでいる地区の行事に参加しているということでもいいと思いますが…。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような面で地域関係者からの支援を求めるかを各分掌で精査し、学校運営協議会を窓口に要請していく等、今後の協働体制を検討する。</li> <li>・諸会議での決定事項の速やかな共有を図り、組織的な業務遂行を推進する。</li> <li>・協議のポイントを明確にした会議運営を徹底し、会議の質の向上と会議時間の短縮を図る。</li> <li>・OJTのさらなる活性化により、若手教員、プレ・ミドル層やミドル・リーダーの指導力向上を図る。</li> <li>・校務分掌等の校内体制を精査し、業務の平準化および、各分掌の長のリーダーシップによる組織化を推進する。</li> <li>・報告・連絡・相談を徹底する。</li> </ul>